

一般学力検査結果の概要

平成24年3月7日（水）・8日（木）に実施した広島県公立高等学校入学者選抜における一般学力検査について、その概要を取りまとめたので、今後の学習指導の参考としてください。

1 出題について

一般学力検査問題の出題に当たっては、学習指導要領に示された各教科の目標に基づき、分野・領域のバランスに留意するとともに、基礎的・基本的な内容を中心に出题した。また、総合問題や記述問題などを取り入れることによって、思考力・判断力・表現力などをみるよう配慮した。

出題の大問数等については、次のとおりである。なお、英語においては、例年どおり実音聴取による問題を出題した。

各教科における設問数

内容	国語	社会	数学	理科	英語	合計
大問数	3	4	6	3	3	19
設問数	25	22	21	22	22	112
選択問題	5	13	2	5	9	34
記述問題等	20	9	19	17	13	78

* 選択問題には、選択した理由を併せて記述する設問を、記述問題等には、漢字の書き取りなどの設問を含めている。

2 検査結果の概要について

各教科等の平均点、標準偏差及び得点分布については、次のとおりであった。

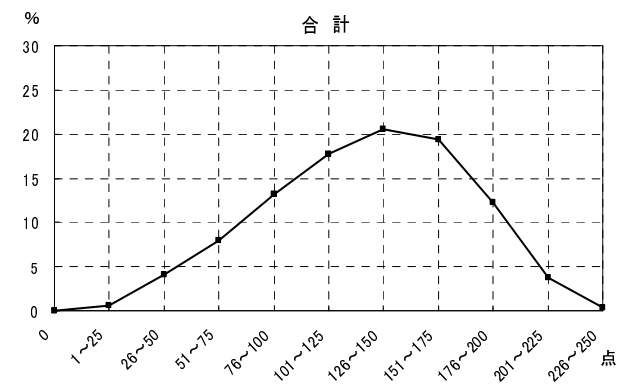
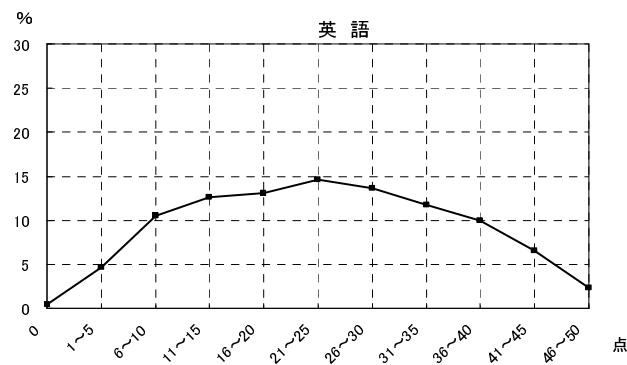
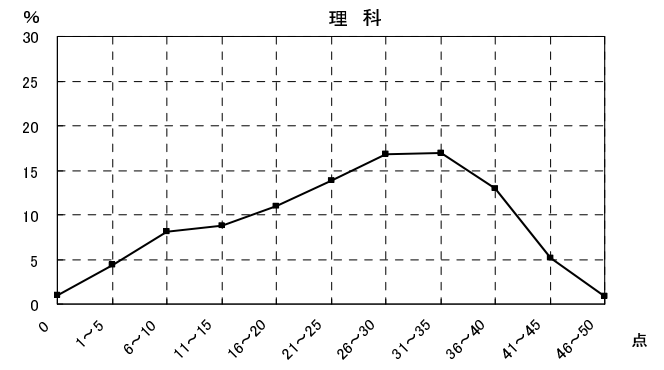
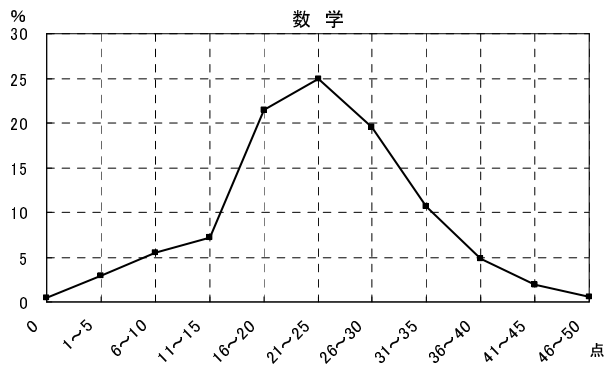
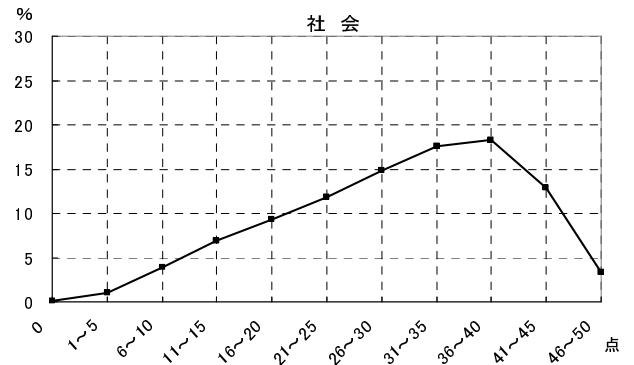
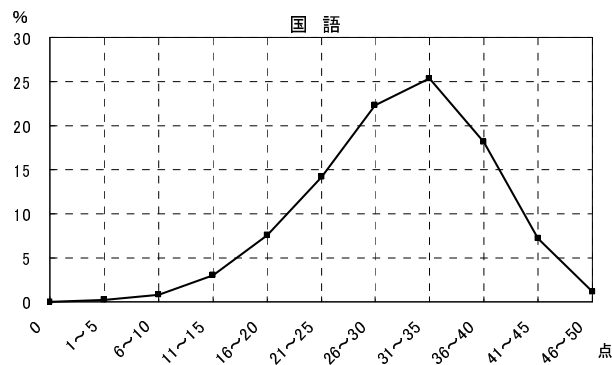
各教科等（50点満点）の平均点

教科	国語	社会	数学	理科	英語	5教科平均
平成24年度	30.2	29.6	22.9	25.0	23.6	26.3
平成23年度	29.0	29.1	21.2	29.4	23.7	26.5

各教科（50点満点）の標準偏差

教科	国語	社会	数学	理科	英語
平成24年度	7.8	10.5	8.6	11.2	11.7
平成23年度	9.8	11.4	7.8	12.8	11.2

各教科等の得点分布（％）



（注）各教科は50点満点，合計は250点満点

5教科合計の平均点には大きな変化はなく，得点分布は全体の形が右寄りの山形となっており，基礎的・基本的な学習内容は全体として定着していると考えられる。

各教科の得点分布を比較すると，国語及び社会では，全体の形が右寄りの山形となっており，基礎的・基本的な学習内容は全体として定着していると考えられる。数学では，全体の中央が高くなった山形となっており，応用的な問題に十分に対応

できない受検者が多い。理科及び英語では、全体の形が台形に近い形になっており、基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分な受検者も多くいると考えられる。

教科別にみると、国語については、平均点が 30 点を超えており、30%以下の得点層に属する受検者が減少した。今後学習を進めて行く上での基盤となる「漢字の読み」と「漢字の書き取り」についての正答率の平均はそれぞれ 98.8%, 92.7%と高い。また、分野・領域別にみると、説明的な文章についての正答率が低い傾向がみられる。論の展開に即して内容を的確に読み取り、読み取ったことを適切に表現することを重視する学習指導を進めていくことが必要である。

社会については、平均点はやや上昇し、30%以下の得点層に属する受検者が減少した。一方、資料をもとに考察し、考察した過程や結果を表現することに課題がみられる。また、分野・領域別にみると、公民についての正答率が低い傾向がみられる。資料から必要な情報を選択して読み取り、習得した基礎的・基本的な知識と関連付けて考察し、考察した過程や結果をまとめたり発表したりすることを重視する学習指導を進めていくことが必要である。

数学については、平均点は上昇したものの、5教科の中で最も低く、30%以下の得点層に属する受検者は依然として少なくない。今後学習を進めて行く上での基盤となる簡単な数・式の計算については正答率の平均が 89.4%と高く、関数や図形についての基礎的・基本的な知識・技能等をみる問題での正答率も上昇した。一方、総じて応用的な問題の正答率が低い傾向は続いている。また、分野・領域別にみると、図形についての正答率が低い傾向がみられる。習得した基礎的・基本的な学習内容を活用して考察することを重視し、応用的な問題にも対応できるよう学習指導を進めていくことが必要である。

理科については、平均点は下降し、60%を超える得点層に属する受検者が大幅に減少し、30%以下の得点層に属する受検者が増加した。さらに、自然の事物・現象について考察し、表現する力が十分でない状況もみられる。また、分野・領域別にみると、地学についての正答率が低い傾向がみられる。基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるための取組を一層進めるとともに、実験・観察の結果を予測したり、結果を基に考察したり表現したりすることを重視する学習指導を進めていくことが必要である。

英語については、平均点には大きな変化はなかったものの、30%以下の得点層に属する受検者が5教科の中で最も多い。さらに、文章の要点を理解し、必要な内容を表現する力が十分でない状況もみられる。また、分野・領域別にみると、対話文についての正答率が低い傾向がみられる。基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるための取組を一層進めるとともに、場面や状況に合った適切な表現を考えて書いたり、文章の要点や概要を理解した上で英語による質問に英語で適切に応答したりすることを重視する学習指導を進めていくことが必要である。

教科に共通した課題としては、文章の内容や要点を的確にとらえたり、資料をもとに考察したりしたことを適切に表現する力などが十分でない状況がみられる。このことから、基礎的・基本的な知識及び技能の習得とともに、これらを活用し課題の解決を図る学習活動を充実させ、今年度から中学校で全面实施される学習指導要領において重視されている思考力・判断力・表現力等を一層育成していく必要がある。

中学校においては、これらのことに留意しつつ、記録、要約、説明、論述といった学習活動を充実させることによって、各教科の学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成に一層努める必要がある。また、高等学校においても、各教科・科目の指導に当たり、義務教育段階での学習内容の習熟の度合いを的確に把握し、習熟が十分でない学習内容については確実な定着を図るための学習機会を設けるなどの工夫を行うことが必要である。